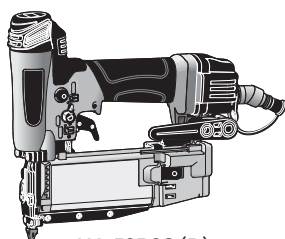
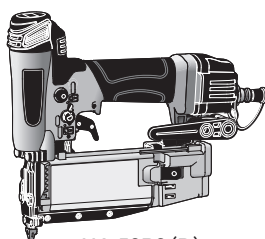
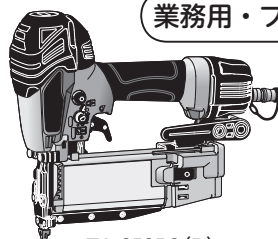
マックス釘打機 スーパーネイラ
HA-50P3S《D》
HA-50P3《D》

マックス釘打機 ピンネイラ
TA-250P3《D》

取扱説明書

業務用・プロ用

HA-50P3S（D）

HA-50P3（D）

TA-250P3（D）

⚠ 警 告

- ●使用前に必ず取扱説明書を読む。
- ●使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。
- ●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。
- ●打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。
- ●射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。
- ●移動する時、使用しない時、調整・修理・ピンネイル装填の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。
- ●フック使用の時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。
- ●スーパーネイラ専用エアコンプレッサ、専用エアホースを必ず使用する。（HA-50P3S（D）、HA-50P3（D））
- ●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。（TA-250P3（D））
- ●揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。
- ●異常を感じたら絶対に使用しない。
- ●エアダスタを使用する時は、必ずトリガをロックする。
- ●エアダスタボタンを押したままでエアホースをはずさない。

●この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
●本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

＊便利メモ

お名前		商品名	HA-50P3S（D）・HA-50P3（D）・TA-250P3（D）
お買い上げ日	年　　月　　日	製造番号	
販売店名	☎（　　　）　　－		

このたびは、マックス釘打機をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

■表示の意味について

ご使用上の注意事項は、⚠警告、⚠注意 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

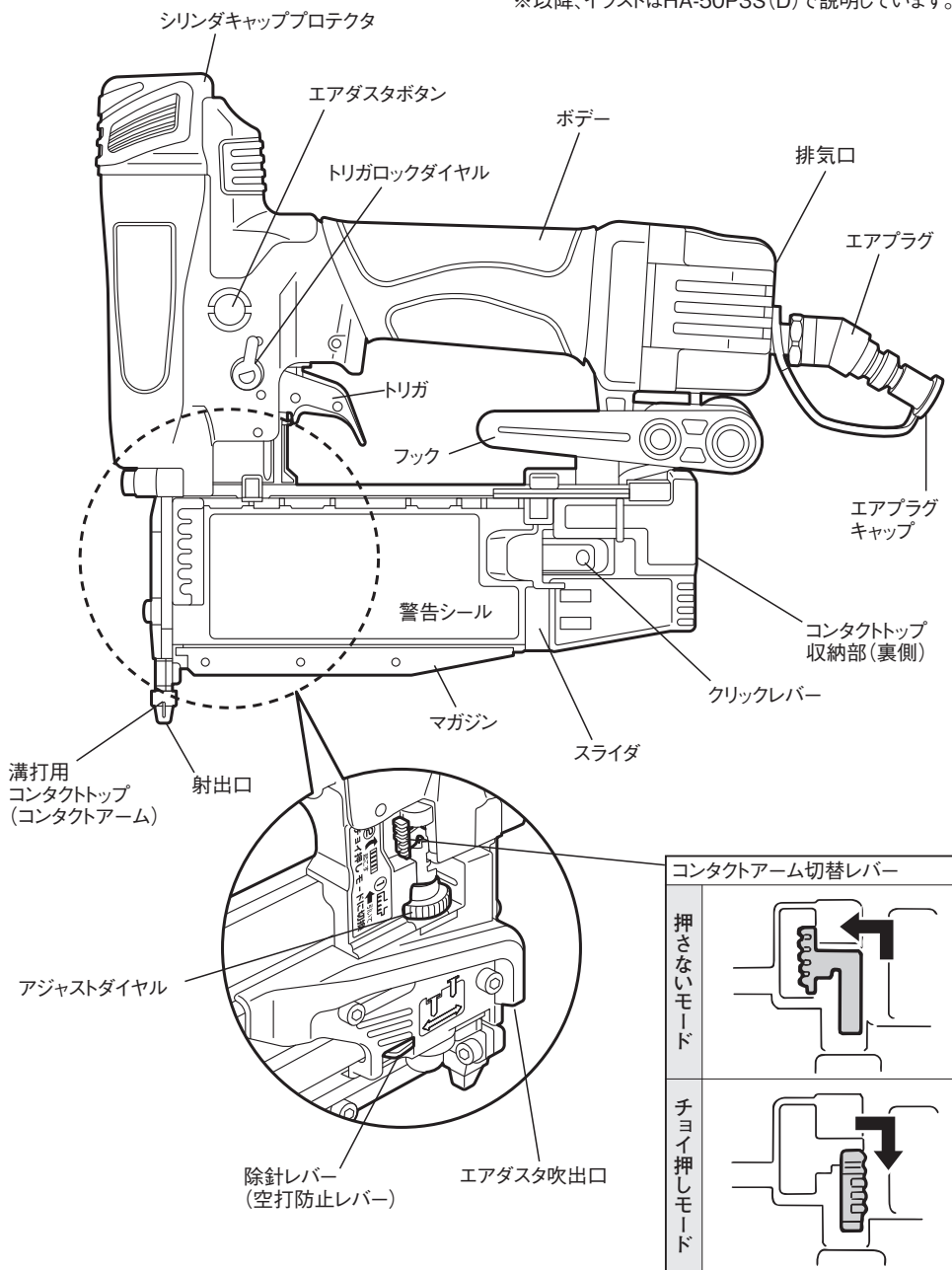
なお、⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

■絵表示について

この記号は「してはいけないこと」を意味しています。この記号の中や近くの表示は具体的な禁止内容です。

目　次

1 各部の名称

※以降、イラストはHA-50P3S(D)で説明しています。

⚠安全作業のために

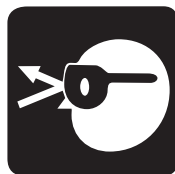
本機は、木材およびそれに類した材料を木材に止めることを目的とした釘打機です。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないでください。

作業前

⚠警告

❶使用の際は、作業者およびまわりの人も必ず保護メガネを着用する。

釘打作業をする時、打ち損じのピンネイルがはね返り、眼に入ると失明する恐れがあります。作業する本人はもとよりまわりの人も必ず保護メガネを着用してください。

❶

❷防音保護具を着用する。

釘打作業をする時、排気音や排気エアから耳を守るため、作業環境に応じて防音保護具（耳栓等）を着用してください。

❷

❸作業環境に応じた防具を着用する。

作業環境に応じてヘルメット、安全靴等の防具を着用してください。

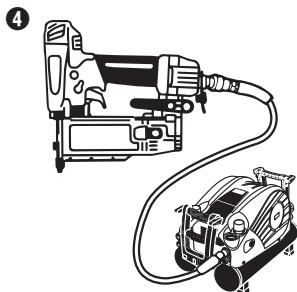
❸

⚠安全作業のために

⚠警告

❹本機使用の際は、スーパーネイラ専用エアコンプレッサ、専用エアホースを必ず使用する。
(HA-50P3S (D)、HA-50P3 (D))

本機は使用性能を向上させるため、使用圧力を従来の釘打機より高く設定しております。本機使用に際しては、専用エアコンプレッサ、専用エアホースが必ず必要です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、専用エアコンプレッサ、専用エアホース以外は絶対に使用しないでください。

❹

❺エアホース接続前に必ず点検する。

エアホースを接続する前に下記の点検を必ず行ってください。

1. ネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
   (TA-250P3 (D)) シリンダキャップの止め付けねじはシリンダキャッププロテクタを取りはずして確認してください。取りはずし方は P20 シリンダキャッププロテクタ交換方法を参照してください。
2. 各部部品が外れていたり、傷んでいないか。
3. トリガをロック（引けないよう固定）できるか。
4. ①コンタクトアームをつまんで上下に動かし、スムーズに動くか。
   ②除針レバーを押しながら、トリガを引き、コンタクトアームが上下に動くか。

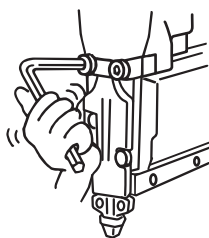
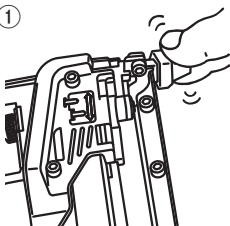
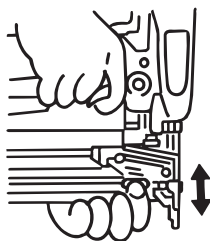
動かない場合は、絶対に使用しないでください。
不完全なまま使うと、事故や破損の原因となります。
異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。
修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱へ、お買い求めの販売店を通じてお申し付けください。

❺-1

❺-4①

❺-4②

⚠安全作業のために

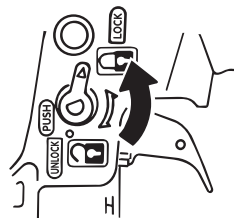
⚠警告

❻固定ラバーがしっかり装着されている事を確認する。
（TA-250P3（D））
固定ラバーがはがれているとシリンダキャッププロテクタを持った時に本体が落下する恐れがあります。異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱へ、お買い求めの販売店を通じてお申し付けください。

❻
❼エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。
（TA-250P3（D））
本機はエアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、エアコンプレッサ以外は絶対に使用しないでください。

❼
❽エアホース接続の時には必ず厳守する。
エアホースを接続するときは誤って作動させないよう下記のことを必ず守ってください。
1.トリガをロック（引けないよう固定）する。
2.射出口に触れたり、対象物に当てた状態にしない。
3.射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。

❽

⚠安全作業のために

⚠警 告

❾エアホース接続時には必ず確認する。

使用前にはピンネイルを装填しないでエアホースを本機に接続し下記の確認を必ず行ってください。

1. エアホースを接続しただけで作動音がしないか。
2. エアホースを接続しただけでエアダスタが作動しないか。
3. エアもれや異常音がしないか。

エアホースを接続しただけで作動したり、エアもれや異常音がする場合は故障しています。そのまま使うと事故の原因となりますので、絶対に使用しないでください。異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱へ、お買い求めの販売店を通じてお申し付けください。

❿安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

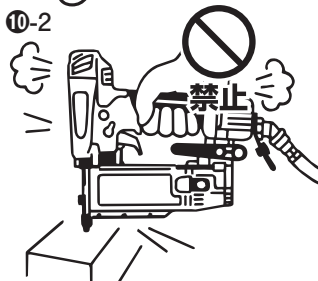
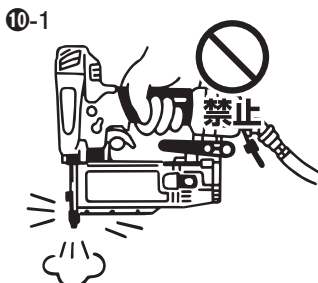
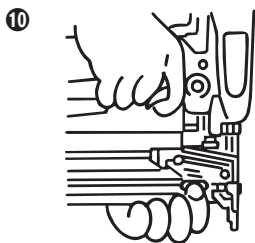
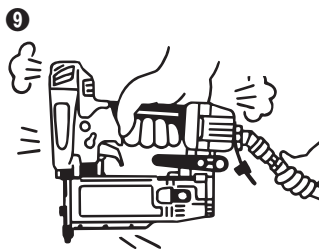
使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。本機は、射出口を対象物に当て、そしてトリガを作動させないとピンネイルが発射されない構造となっています。ピンネイルを装填しないでエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをアンロックにセットし、さらに除針レバーを押しながら確認してください。

※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1. トリガを引いただけで、作動音がする。
2. コンタクトアームを対象物に当てただけで作動音がする。

異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱へ、お買い求めの販売店を通じてお申し付けください。

⚠安全作業のために

⚠ 警 告

⓫指定ピンネイルを必ず使用する。

指定されたピンネイルと異なるものを使用すると本機の故障や事故の原因となりますので、必ず指定のピンネイルをご使用ください。(13 ページ参照)

⓫

⓬作業場所を常に整理する。

作業場所が乱雑だとつまづくなどして思わぬ事故の原因となります。作業場所は常に整理整頓をして安定した姿勢で作業を行ってください。

⓬

作業中

⚠ 警 告

❶使用空気圧を必ず守る。

(HA-50P3S (D)、HA-50P3 (D))

本機の使用空気圧範囲は 1.2 ～ 2.3MPa（約 12 ～ 23kgf/cm²）です。対象物によりその範囲内で調整し使用してください。2.3MPa（約 23kgf/cm²）を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

(TA-250P3 (D))

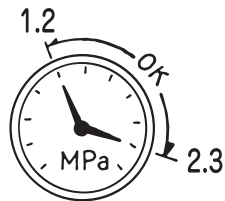
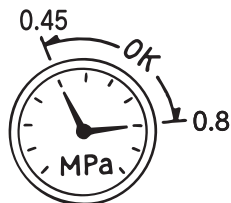
本機の使用空気圧範囲は 0.45 ～ 0.8MPa（約 4.5 ～ 8kgf/cm²）です。対象物によりその範囲内で調整し使用してください。0.8MPa（約 8kgf/cm²）を超えた圧力で使用すると本機の寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

❶

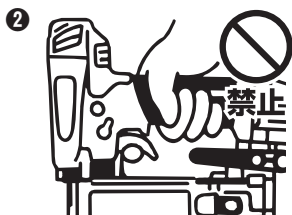
HA-50P3S(D)、
HA-50P3(D)

TA-250P3(D)

⚠安全作業のために

⚠警告

❷打つ時以外は絶対にトリガに指をかけない。

トリガに指をかけたまま本機を取り回し、誤って発射した場合は思いがけない事故につながります。ピンネイルを打つ時以外は絶対にトリガに指をかけないでください。

❷

❸射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。

射出口を人に向け、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。また、射出口付近に手足等を近づけての作業は危険ですからさけてください。同時に打ち損じたピンネイルが人に当たらないよう作業中はまわりの人に注意をはらってください。

❸

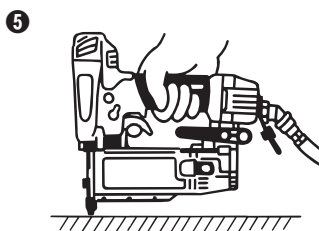
❹向い合わせの釘打ちは絶対にしない。

向い合って釘打作業をすると、打ち損じたピンネイルが前の作業者にあたり、思わぬ怪我をすることがありますので、向い合わせの釘打ちは絶対にしないでください。

❹

❺射出口を確実に対象物に当てる。

射出口を確実に対象物に当てないと、一度打ったピンネイルや木の節などに当たった場合ピンネイルがはねたり、それたりして大変危険です。また、本機が強く反発することもあり危険ですから、射出口を確実に対象物に当ててください。

❺

❻揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。

本機やエアコンプレッサを揮発性可燃物（例：シンナー、ガソリン等）のそばで使うとピンネイル打込時の火花による引火や、空気といっしょに吸入圧縮され、爆発の危険を伴いますので、揮発性可燃物のそばでは絶対に使用しないでください。

❻

⚠安全作業のために

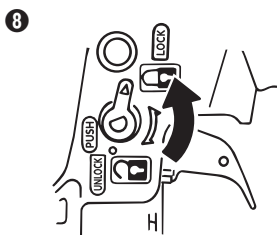
⚠警告

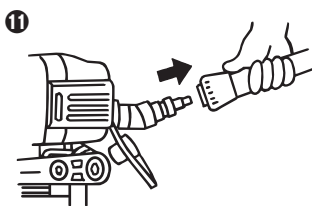
❼移動する際は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

エアホースを接続した状態でトリガを引いたまま本機を持ち歩いたり、手渡し等をし、誤って発射した場合には思いがけない事故につながります。移動する際は、トリガをロックし、エアホースをはずしてください。

❼
❽フック使用の時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

❾コンタクトトップ交換時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずし、ピンネイルを取りのぞく。

❿落下やそれに類する衝撃を機械本体に与えた場合、安全装置が正常に作動する事を確認してから作業を再開する。

❽
⓫作業中断時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業中のピンネイル装填、調整及びピンネイルづまりを直すときは誤ってピンネイルを発射すると危険ですから、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。

⓫
⓬異常を感じたら絶対に使用しない。

作業中に本機の調子が悪かったり、異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱へ、お買い求めの販売店を通じてお申し付けください。

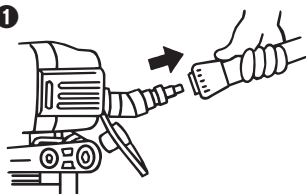
⓬

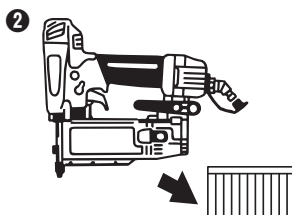
⚠安全作業のために

作業後

⚠ 警 告

❶作業終了時には必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

作業終了時には、必ずトリガをロックし、エアホースをはずしてください。ダスタボタンを押しながらエアホースをはずさないでください。本機内部にエアが残る可能性があります。

❶
❷作業終了時には必ずピンネイルを抜き取る。

ピンネイルをマガジン内に残しておくと、次に使用するときうっかり手を触れたり、誤って作動させた場合、思わぬ事故につながることがあります。作業終了時には必ずマガジン内のピンネイルを抜きとってください。

❷
❸本機を絶対に改造しない。

本機を改造すると、本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

❸
屋外作業について

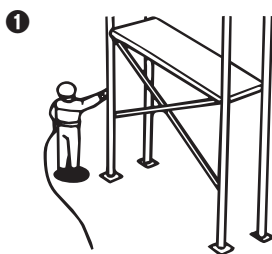
⚠ 警 告

❶足場の安全性を充分に確認する。

足場を使っての高所作業の場合、釘打作業中に落ちることのないように充分足場の安全性を確認してください。

❶

⚠安全作業のために

⚠警告

❷エアホースの確保。

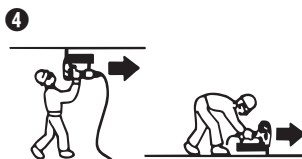
高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに必ず固定箇所を作ってください。これは不用意にホースが引っぱられたり、引っかかったりしたときの危険を防ぐためです。また、ホースのたるみやねじれのないように注意してください。

❷
❸直射日光をさける。

本機やエアセット、エアコンプレッサは直射日光に長時間あてたまま放置しないでください。また、エアコンプレッサはできるだけ日陰に設置して使用してください。

❸
打ち方

❹水平面の釘打ち

前進姿勢で釘打作業を行ってください。安全で疲労が少なく、正確で速い作業ができます。後退しながらの作業は足をとられるなど危険です。

❹
❺垂直面の釘打ち

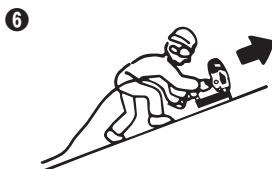
本機を手の届く最も高いところまで差し上げ、上から順に下へ釘打作業を行ってください。疲労の少ない作業ができます。

※内、外壁の同時打ちは絶対にしないでください。

❺
❻傾斜面の釘打ち

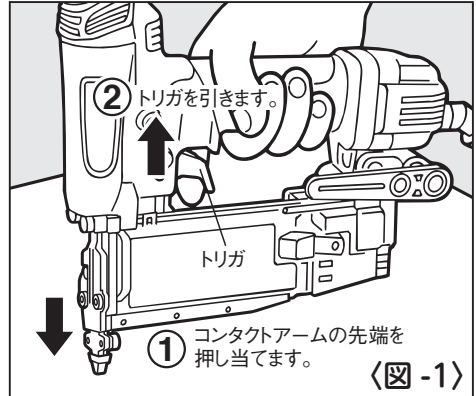
下から上に向かって前進姿勢で釘打作業を行ってください。上から下に後退すると足を踏みはずす危険があります。

❻

3 ⚠安全装置について

釘打作業の安全を確保するため、本機には次のような安全装置がついています。

●メカニカル安全装置（シーケンシャルトリガ）

これはコンタクトアーム、そしてトリガの順に作動させないとピンネイルを発射しないメカニズムです。つまりトリガを引いただけのときや、コンタクトアームを打込対象物に当てただけのとき、また、トリガ、コンタクトアームの順に作動させたときはピンネイルは発射しません。コンタクトアームを対象物に当ててからトリガを引いたときのみピンネイルは発射されます。 〈図 -1〉

〈図 -1〉

⚠ 警 告

●安全装置が完全に作動するか使用前に必ず点検する。正常に作動しない場合は使用しない。

使用前には必ず安全装置が完全に作動するか、確認してください。ピンネイルを装填しないでエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをアンロックにセットし、さらに除針レバーを押しながら確認してください。

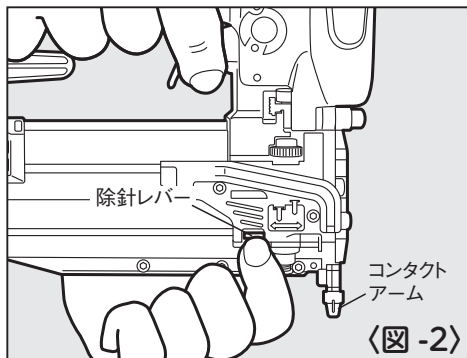
※下記の場合には安全装置が故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

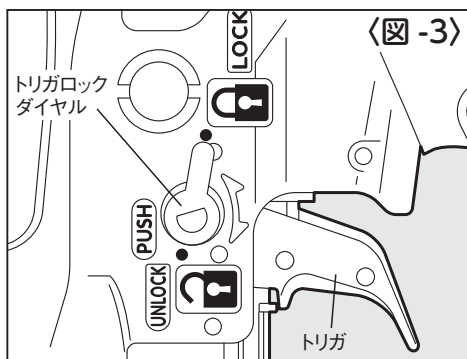
1. トリガを引いただけで、作動音がする。
2. コンタクトアームを打込対象物に当てただけで、作動音がする。

異常を感じたら、ただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング ＆ サービスファクトリー㈱へ、お買い求めの販売店を通じてお申し付けください。

3 ⚠安全装置について

※本機は空打防止装置が装備されていますのでピンネイルを装填しない状態ではコンタクトアームは動きません。安全装置の確認をする場合やコンタクトアームの動きを確認する場合は、除針レバーを押し、空打防止装置を解除しながら行ってください。〈図 -2〉

※ピンネイルを装填しない状態で確認してください。

●トリガロック装置

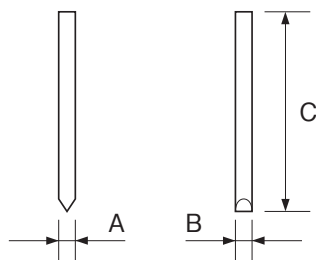
本機にはより安全に作業していただくためにトリガロック装置を標準装備しています。トリガロック装置とは、作業しないときに本機の使用者の意志によってトリガをロック（引けないように固定）することにより作動できないようにすることができる装置です。〈図 -3〉

ピンネイルを打っているとき以外はトリガロックダイヤルを押し回し、ロックの位置にセットしエアホースをはずしてください。作業を始める場合はトリガロックダイヤルを押し回しアンロックの位置にセットしてください。

4 仕様及び付属品

商品名	マックス釘打機スーパーネイラ		マックス釘打機 ピンネイラ
商品記号	HA-50P3S(D)	HA-50P3(D)	TA-250P3(D)
寸法	(H)217 × (W)66 × (L)274 mm	(H)217 × (W)66 × (L)257 mm	(H)218 × (W)66 × (L)267 mm
質量	1.3kg		
ピンネイル装填数	100本(最大約130本)		
使用空気圧範囲	1.2〜2.3MPa (約12〜23kgf/cm^2)		0.45〜0.8MPa (約4.5〜8kgf/cm^2)
使用エアコンプレッサ	マックス スーパーエア・コンプレッサシリーズ		エアコンプレッサ
使用エアホース	マックス スーパーエア・ホースシリーズ		内径7mm以上、長さ30m以内
使用オイル	タービン油2種 ISO VG32(JIS K 2213)		
安全装置	メカニカル方式、トリガロック装置		
装備品	六角棒スパナ3mm、溝打用コンタクトトップ、平打用コンタクトトップ、シリンダキャッププロテクタ		
付属品	キャリングケース、ジェットオイラ(油入)、保護メガネ		

〈ピンネイルサイズ〉

●先端形状はチゼルポイントです。

(単位:mm)

ピンネイル	A	B	C	先端形状
P15F3カラー	0.6	0.6	15	チゼルポイント
P19F3カラー	0.6	0.6	19	
P25F3カラー -S	0.6	0.6	25	
P30F3カラー -S	0.6	0.6	30	
P35F3カラー -S	0.6	0.6	35	
P45F3カラー -S	0.6	0.6	45	
P50F3カラー	0.6	0.6	50	

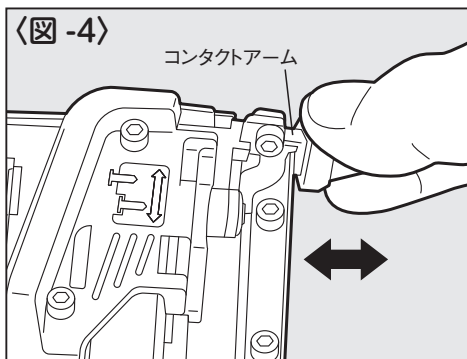
5 使用方法

使用前に本機とエアコンプレッサを接続しないで使い方を覚えてください。

【コンタクトアームの動作確認】

⚠ 警告

●コンタクトアームの動作確認をするときは、必ずトリガをロックし、エアホースをはずし、ピンネイルを取りのぞく。

コンタクトアームが正常に作動するか確認してください。正常に作動しない場合はただちに使用を中止してください。修理の際は決してご自分で修理をなさらずに、本機の性能回復のために充分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱へ、お買い求めの販売店を通じてお申し付けください。

❶トリガをロックし､エアホースをはずし､ピンネイルを取りのぞきます。

❷コンタクトアームをつまんで上下に動かし、スムーズに動けば正常です。 〈図 -4〉

【ピンネイルの装填方法】

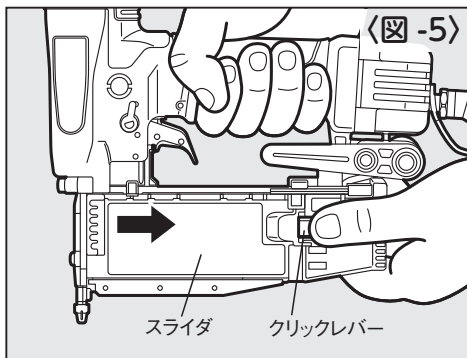
⚠ 警告

●ピンネイルを装填するときは、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

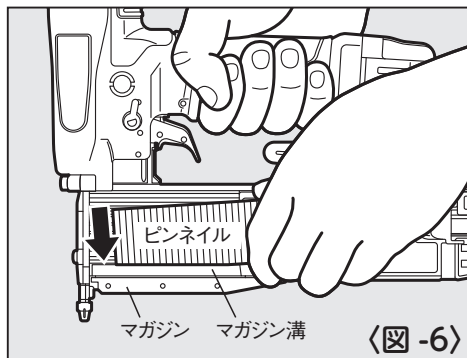
手順

❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

❷クリックレバーを押しながら、スライダを止まるまで静かに引き出します。

〈図 -5〉

❸マガジン内にピンネイルを入れます。この時、ピンネイルの足先をマガジン下部溝の奥までしっかり入れてください。

〈図 -6〉

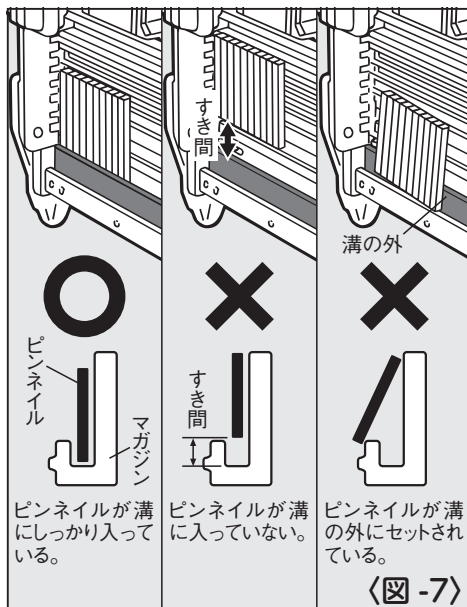
※特に短いサイズ（15、19mm）は、マガジン下部の溝に入りづらいので確実に足先が入っていることを確認してください。

〈図 -6〉

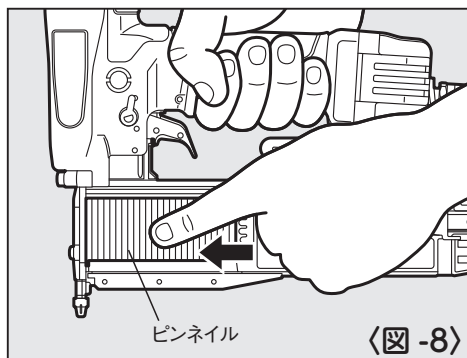
⚠ 注 意

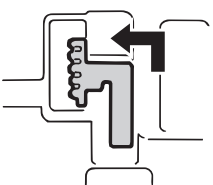
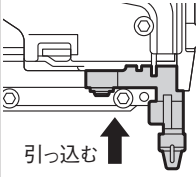
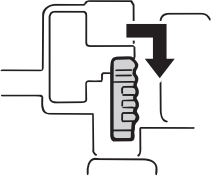
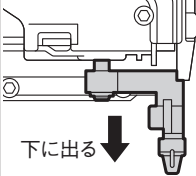
- **ピンネイル足先にすき間があるままスライダをセットするとピンネイルつまりや本機の故障の原因となります。**

  〈図 -7〉

- **足長さの違うピンネイルを同時に装填しないでください。**
- **本数の少ないピンネイル（特に 15・19mm）を使用すると、ピンネイルつまりの原因となります。**
- **本数の少ないピンネイルを一度に数連装填するとピンネイルつまりの原因となります。**

〈図 -7〉

❹マガジン内のピンネイルを指で射出口内へ送り込みます。〈図 -8〉

❺スライダを閉じます。

〈図 -8〉

【打ち方】

⚠ 警告

●本機を作動させる時は、指等でコンタクトアームを固定しない。

●押しかた選べる機構

（コンタクトアーム切替機構）

本機はコンタクトアーム切替レバーにより、コンタクトアーム位置を変更する事ができます。

	コンタクトアーム切替レバー	コンタクトアーム先端の状態	打ち方
押さないモード		引っ込む	コンタクトアームを部材に軽く当てて、トリガを引くだけでピンネイルを発射する事ができます。部材を傷つけずに狙った場所に正確に打つ事ができます。
チョイ押しモード		下に出る	コンタクトアームを部材に少しだけ押し当ててトリガを引く事でピンネイルを発射する事ができます。コンタクトアームがクッション的な役割をはたし、従来機同様の使い方ができます。

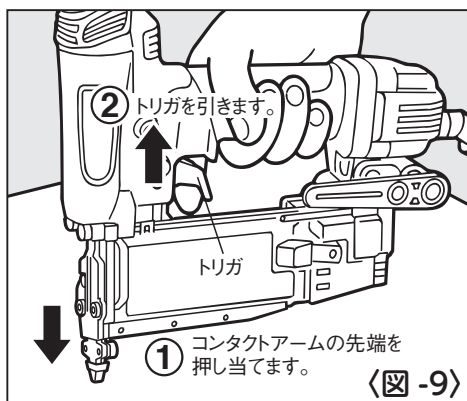
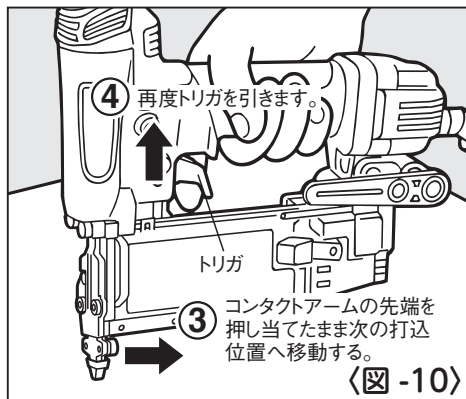
（出荷時は「押さないモード」にセットされています。）

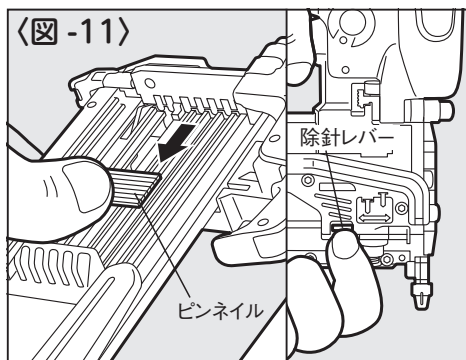
本機は、仕上がりと安全性を重視した単発打ち専用のメカニズムを装備しております。

❶トリガロックダイヤルをアンロックにセットしてください。

❷ピンネイルを打とうとする場所にコンタクトアームの先端を押し当ててからトリガを引きます。〈図 -9〉

❸トリガを引いたままで、再度コンタクトアームを対象物に当ててもピンネイルは発射されませんので、トリガから指をいったんはなし、❷の動作を繰り返し行ってください。

〈図 -9〉

❹コンタクトアームを押し付けたまま次の打ち込み位置へ移動して再度トリガを引いてもピンネイルを発射することができます。 〈図 -10〉

●**空打防止機構**

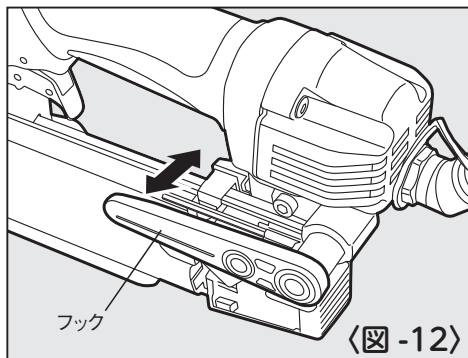
本機は空打防止機構がついています。マガジン内にピンネイルが入っていない場合、及びピンネイル残量が約12本になった場合、トリガを引いても動作しません。ピンネイルを取り外す時は、トリガをロックし、エアホースをはずしてから除針レバーを押しながら取り除いて解除してください。 〈図 -11〉

⚠ 注 意

●除針レバーを押しながら打つと、ピンネイルが詰まったりし、故障の原因となりますので絶対にしないでください。

【フックについて】

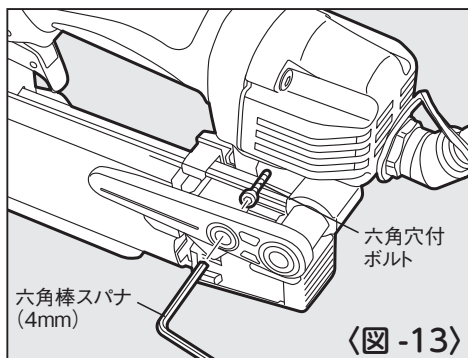
フックをスライドさせる事でフック幅を変える事ができます。　〈図 -12〉

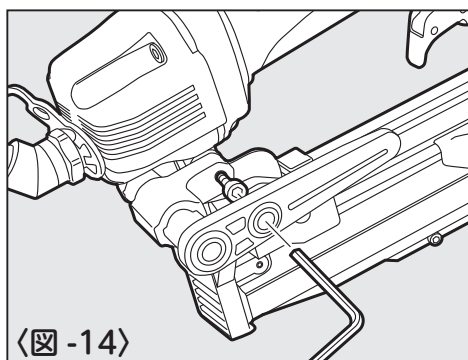
※キャリングケース収納時はフック幅を小さくした状態で収納してください。

〈図 -12〉

【フックの方向の変え方】

フックは本体右側に取り付ける事もできます。

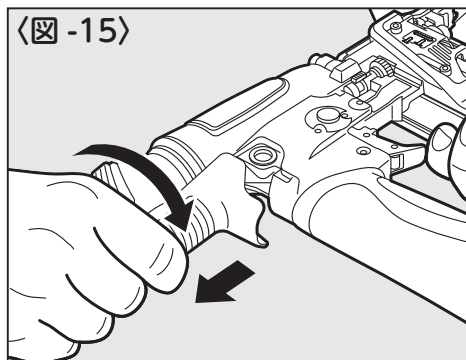
❶六角穴付ボルトを六角棒スパナ（4mm）ではずします。　〈図 -13〉

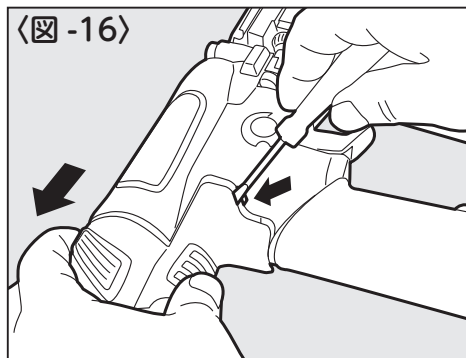
〈図 -13〉

❷フックを本体右側に取り付け再度六角穴付ボルトを取り付けます。　〈図 -14〉

〈図 -14〉

【シリンダキャッププロテクタ交換方法】（HA-50P3S（D）、HA-50P3（D））

手順

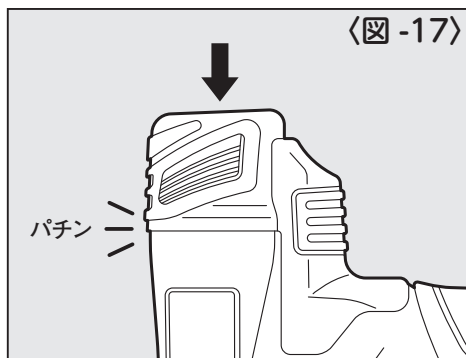
❶シリンダキャッププロテクタをつかみ、ひねりながら本体上方向に引っ張ってください。〈図 -15〉

〈図 -15〉

取れない場合は、図の位置にマイナスドライバを差し込み、シリンダキャッププロテクタを浮かせた状態で引っ張ってください。〈図 -16〉

〈図 -16〉

⚠ 注 意

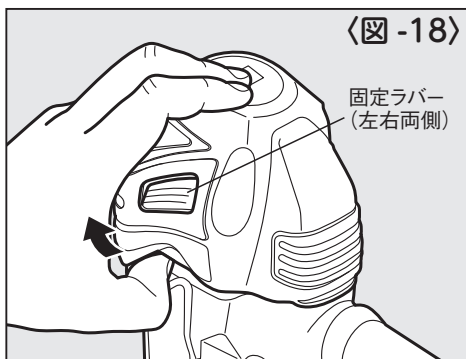
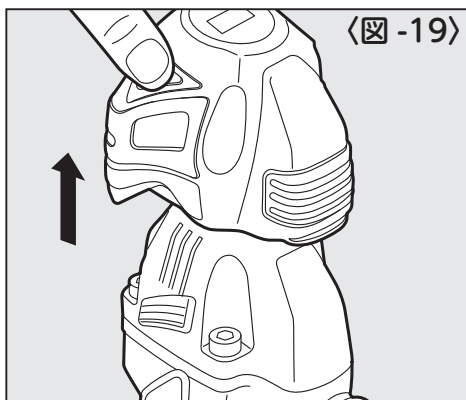
●ボデーを傷付けない様、気を付けてください。

❷新しいシリンダキャッププロテクタを、上からパチンと音がするまで取り付けてください。〈図 -17〉

〈図 -17〉

【シリンダキャッププロテクタ交換方法】（TA-250P3(D)）

シリンダキャッププロテクタは交換する事ができます。

手順

❶シリンダキャッププロテクタに指を差し入れ、左右の固定ラバーから外します。〈図 -18〉

❷上方向にシリンダキャッププロテクタを引っ張り取り外します。〈図 -19〉

⚠ 注 意

●固定ラバーから外さずに無理に引張らないでください。固定ラバーがはがれてシリンダキャッププロテクタを固定できなくなります。

❸新しいシリンダキャッププロテクタを押し込み、固定ラバーがしっかりはまっている事を確認してください。〈図 -20〉

⚠ 警 告

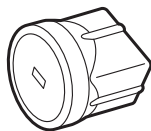
●固定ラバーがしっかり接着されている事を確認する。

シリンダキャッププロテクタをお求めの際には、お買い求めの販売店または、マックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱にご相談ください。

【コンタクトトップの交換方法】

〈コンタクトトップの選定〉

本機には、2 種のコンタクトトップが装備されています。必要に応じてコンタクトトップを付け換えてください。

溝打ち用
巾木の溝打ちに適しています。

平打ち用
杉などの柔らかい部材への平打ちに適しています。

⚠ 警 告

●コンタクトトップを交換する際は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずし、ピンネイルを取りのぞく。

手順

❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

❷ピンネイルをマガジン内より抜き取ります。

❸コンタクトトップを引っ張り、はずします。〈図 -21〉

❹スライダを引き出し、マガジン後部に取り付けてあるコンタクトトップをはずします。〈図 -22〉

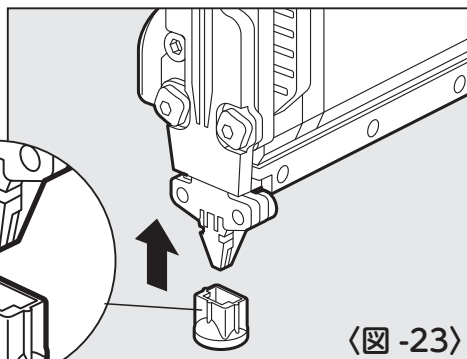
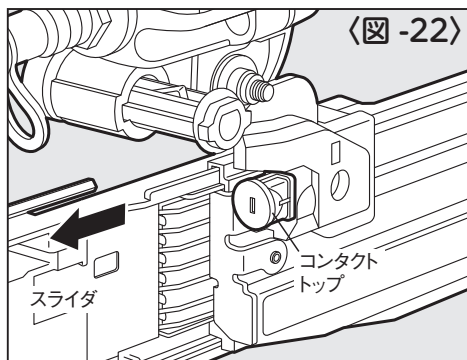
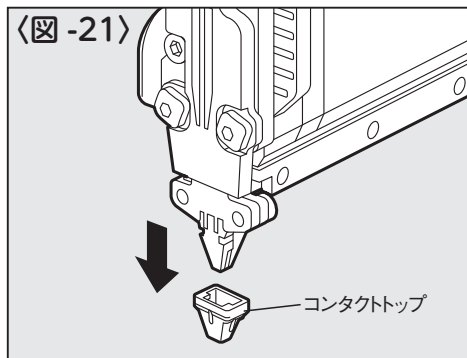
❺作業に合わせて適切なコンタクトトップを先端に差し込み、確実に取り付けてください。〈図 -23〉

❻外したコンタクトトップは、マガジン後部に取り付けておくことが出来ます。

※コンタクトトップには向きがあります。正しい方向で取り付けてください。

〈図 -21〉

〈図 -22〉

〈図 -23〉

【エアダスタの使用方法】

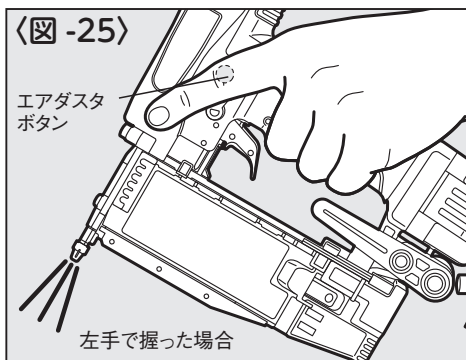
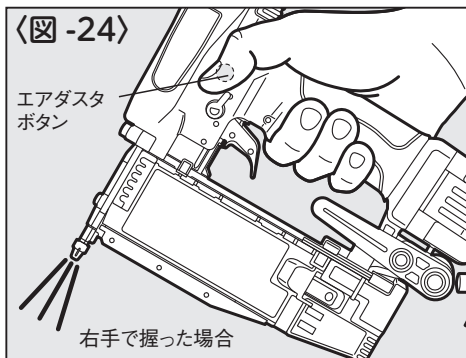
⚠ 警 告

- **射出口やエアダスタの吹き出し口を絶対に人体に向けない。**
- **エアダスタを使用する時は、必ずトリガをロックする。**
- **エアダスタボタンを押したままでエアホースをはずさない。**

❶トリガロックをロックの位置にセットしてください。

❷エアを吹きたい所に吹き出し口を向けて、エアダスタボタンを押してください。〈図 -24〉〈図 -25〉

〈図 -24〉

〈図 -25〉

⚠ 注 意

- **エアダスタを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。エアコンプレッサの圧力が回復してから作業を始めてください。**
- **注油した直後にエアダスタを使用すると、オイルが吹き出し口より飛散する場合があります。10 ～ 30 発程度実打してからエアダスタを使用してください。**

配管についての注意

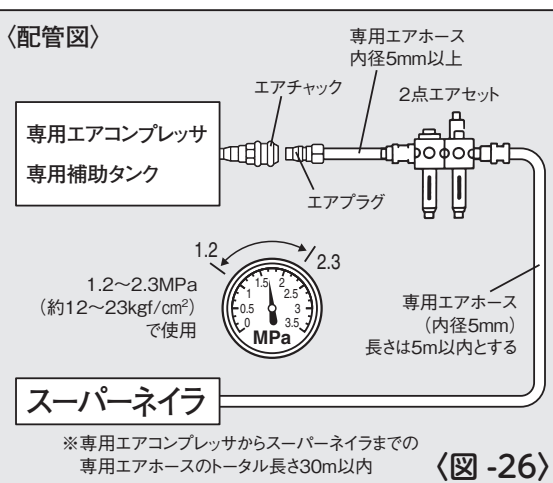
(HA-50P3S(D)、HA-50P3(D))

⚠ 警告

●本機使用の際は、スーパーネイラ専用エアコンプレッサ、専用エアホースを必ず使用する。
本機は、使用性能を向上させるため、使用圧力を従来の釘打機より高く設定しております。使用に際しては、専用エアコンプレッサ、専用エアホースが必要です。圧縮空気以外の高圧ガス(例:酸素、アセチレン等)を使うと異常燃焼をおこし爆発の危険を伴いますので、専用エアコンプレッサ、専用エアホース以外は絶対に使用しないでください。
また、本機、専用エアコンプレッサ、専用エアホースとも、エアプラグ、エアチャックが専用のものとなっており市販の物とは互換性がありませんので、他の機器との接続はできない仕様になっております。改造・加工等して他の機器を使えるように絶対にしないでください。

❶動力源は必ずマックス専用エアコンプレッサを使用してください。高圧ガス(例:酸素、アセチレン等)等は絶対に使わないでください。

❷エアセットはできるだけ本機1台に1セット取付けるようにしてください。

❸接続するエアホースもマックス専用エアホースを使用してください。専用エアホースは内径5mm以上、長さ30m以内で使用してください。エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径5mm以上、長さ5m以内で使用してください。〈図-26〉

〈図-26〉

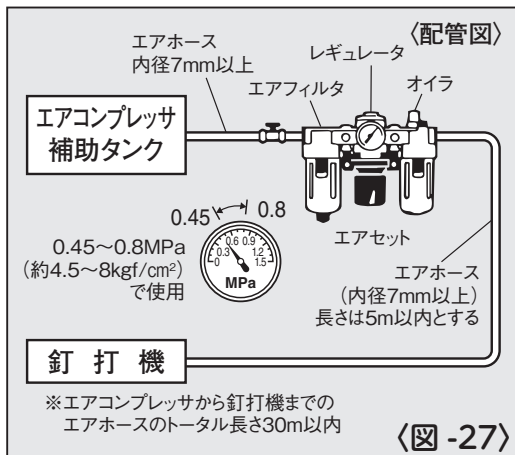
（TA-250P3（D））

⚠ 警告

●エアコンプレッサ以外の動力源は絶対に使用しない。

❶動力源は必ずエアコンプレッサをお使いください。高圧ガス（例：酸素、アセチレン等）は絶対に使わないでください。

❷エアセットはできるだけ本機１台に１セット取付けるようにしてください。

❸エアホースは内径7mm以上、長さ30 m以内で使用してください。エアセット使用時は、エアセットから釘打機までのエアホースを内径7mm以上、長さ５m以内で使用してください。〈図-27〉

〈図-27〉

エアホースの接続

⚠ 警告

●エアホース接続の時は必ず厳守する。

エアホースを接続する時は誤って作動させないように下記のことを必ず守ってください。

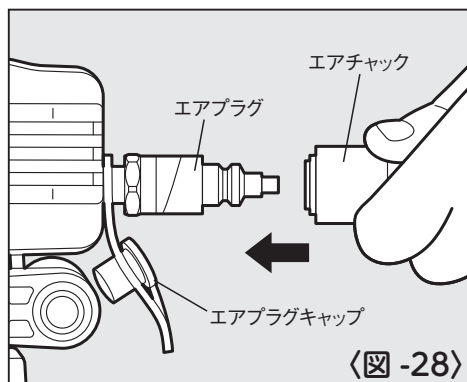
1. トリガやエアダスタボタンに指をかけない。
2. 射出口やエアダスタ吹き出し口に触れたり、対象物に当てた状態にしない。
3. 射出口やエアダスタ吹き出し口を人体に向けない。

手順

❶トリガをロックします。

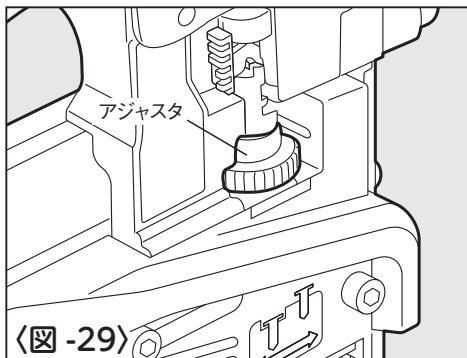
❷エアプラグからエアプラグキャップをはずします。

❸エアプラグにエアホースのエアチャックを接続します。 〈図 -28〉

〈図 -28〉

⚠ 警告

●作業中断時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

8 アジャスタの調整と打込状態の確認

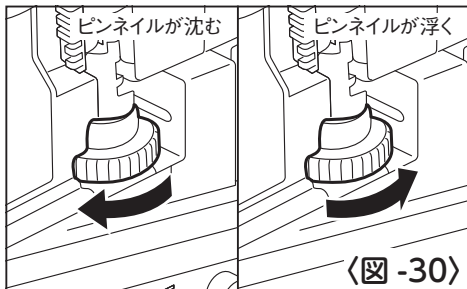
本機には打込深さを調整できるアジャスタが装備されています。打込みすぎは極端に保持力が低下しますので作業の際には打込状態を確認して、アジャスタで深さを調整してください。　〈図 -29〉

⚠ 警 告

●調整の時は必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。

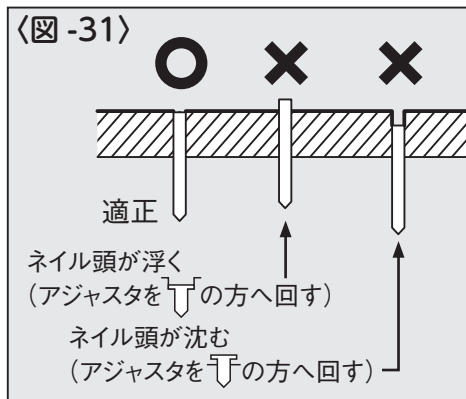
〈図 -29〉

手順

❶トリガをロックし、エアホースをはずします。
❷ピンネイルを装填します。
❸エアコンプレッサの圧力を
(HA-50P3S(D)、HA-50P3(D))…1.5MPa（約 15kgf/cm²）
(TA-250P3(D))…0.6MPa（約 6kgf/cm²）
にセットします。
❹本機にエアホースを接続し、トリガロックダイヤルをアンロックにセットします。
❺アジャスタの調整（ピンネイルの打込調整）の前に一度テスト打ちしてください。打込みたい深さを確認します。
❻トリガをロックし、エアホースをはずします。
❼ピンネイルを取り出します。
❽アジャスタを回し調整します。〈図 -30〉
※アジャスタを 1 回転させると約 1mm 上下します。
❾本機にピンネイルを装填します。

〈図 -30〉

⑩エアホースを接続し、トリガロックダイヤルをアンロックにセットしてさらにテスト打ちをして適正かどうか確認してください。〈図 -31〉

⑪適正であれば調整完了です。不適正であれば以上の手順をくり返してください。

⑫適正状態が得られない場合はエアコンプレッサの空気圧を調整してください。

※足長さの長いピンネイル（45・50mm）を使用する時は、空気圧を高め、
（HA-50P3S（D）、HA-50P3（D））…1.5 ～ 2.3MPa（約 15 ～ 23 kg f/cm²）
（TA-250P3（D））…0.6 ～ 0.8MPa（約 6 ～ 8kgf/cm²）
に設定し、使用してください。

⚠ 警告

●（HA-50P3S（D）、HA-50P3（D））
2.3MPa（約 23 kg f/cm²）を超えた圧力では絶対に使用しない。
（TA-250P3（D））
0.8MPa（約 8 kg f/cm²）を超えた圧力では絶対に使用しない。

9 ピンネイルづまりの直し方

⚠ 警告

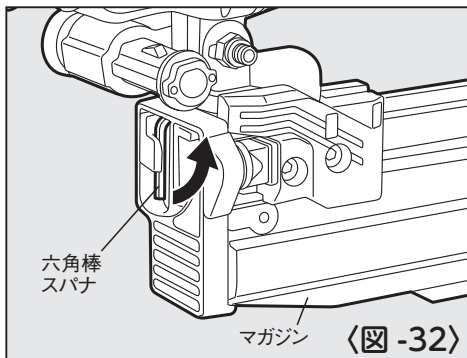
●**ピンネイルづまりを直す時は、必ずトリガをロックし、エアホースをはずす。**

手順

❶トリガをロックし、エアホースをはずします。

❷ピンネイルをマガジン内より抜き取ります。

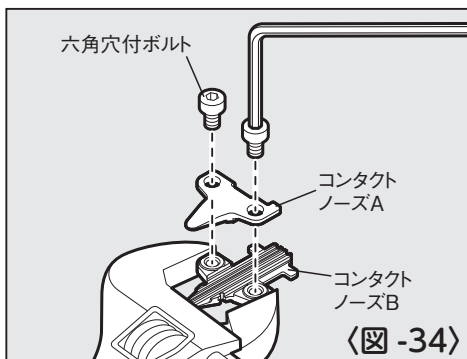
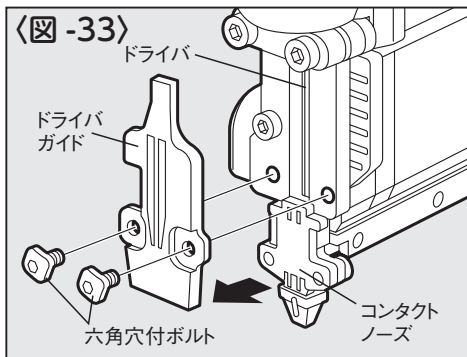
❸マガジン後部に収納してある六角棒スパナを矢印方向に回し、引き抜きます。〈図 -32〉

〈図 -32〉

❹ドライバガイドをとめている六角穴付ボルトを外して、ドライバガイドを外します。〈図 -33〉

❺詰まったピンネイルを取り除きます。

〈図 -33〉

❻コンタクトノーズ内にピンネイルが詰まっている場合、コンタクトノーズAを外してコンタクトノーズの側面をスパナやモンキーレンチなどではさみ、六角穴付ボルトを外し、詰まったピンネイルを取り除きます。〈図 -34〉

〈図 -34〉

⚠ 注 意

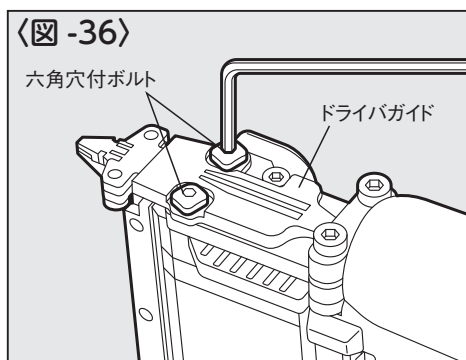
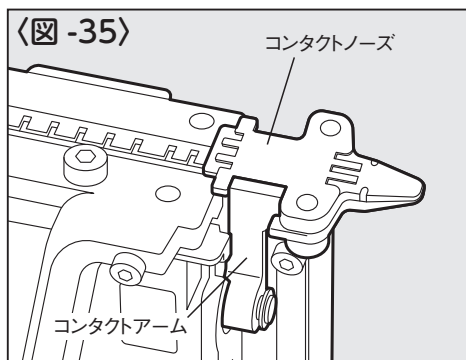
●**ドライバガイド、コンタクトノーズA、コンタクトノーズB、ドライバに詰まったピンネイルの破片が残っていない事を確認してください。**

❼コンタクトノーズA､Bを位置を合わせ、六角穴付ボルトをしっかり締めてください。

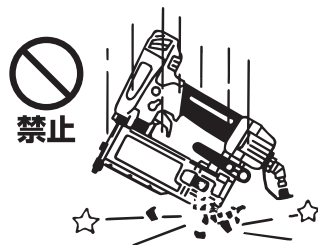
❽コンタクトノーズの位置を確認し、ドライバガイドの位置を合わせ、六角穴付ボルトをしっかりと締めてください。

〈図 -35〉〈図 -36〉

〈図 -35〉

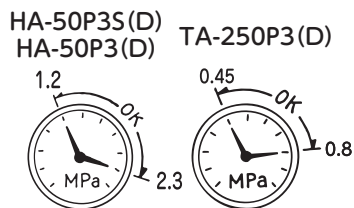
〈図 -36〉

10 性能を維持するために

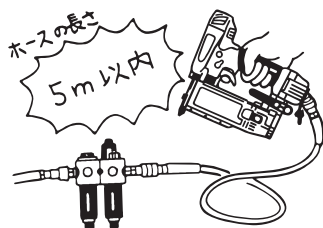
❶本機を大切に使う

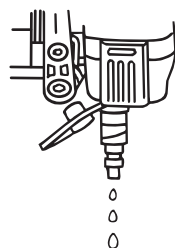
落したり、ぶつけたり、叩いたりしますと、変形、亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落したり、ぶつけたり、叩いたりしないでください。

❷カラ打ちをしない

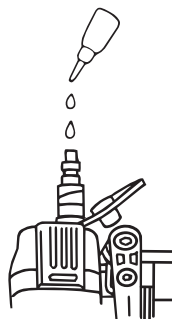
ピンネイルを装填しないでカラ打ちをくり返し行うと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

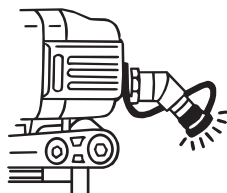
❸エア圧力を調整し、使用する

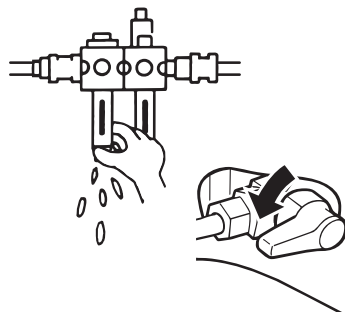
打込対象物に合わせ必ず空気圧を調整し、使用してください。対象物に対して空気圧が高すぎるまま使用しますと各部の耐久性が低下しますのでさけてください。

❹エアセットを使用する

エアセットを使わないとエアコンプレッサ内の水分やゴミが本機内に入り、錆や摩耗が発生して作動不良の原因になります。なお、エアセットから本機までのエアホースは長すぎると圧力低下となりますので 5m 以内にしてください。

❺本機の水抜きをする

作業終了時エアプラグを下に向け十分水抜きしてください。

❻指定オイルを注油する

オイルはタービン油2種 ISO VG32（JIS K 2213）を必ずお使いください。使用前使用後にエアプラグの口より2～3滴注油してください。指定外のオイルを使用しますと、能力低下や故障の原因となります。

❼エアプラグキャップの使用方法

本機を使用しないときには、機械内部にゴミなど入ると故障の原因となりますので、本機を使用しないときはエアプラグにキャップを装着してください。

❽エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタの水抜きをする

エアコンプレッサのタンク、補助タンク、エアセットのエアフィルタに水がたまると能力低下や故障の原因となりますので定期的に水抜きをしてください。

❾定期的に点検する

本機の性能を維持するために清掃、点検を定期的に行ってください。定期点検は、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱へ、お買い上げの販売店を通じてお申し付けください。

保証、アフターサービスについて

【保証について】

●本機には保証書（外箱に添付）がついています。

●所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●本機の基本保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。
「お客様登録カード」にて登録手続きしていただいたお客様に限り、保証期間が 2 年間となります。

【アフターサービスについて】

●本機の調子が悪いときは、すぐに使用を中止してください。修理の際は、本機の性能回復のために十分な技術と設備を有しているマックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱へ、お買い上げの販売店を通じてお申し付けください。

●保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理は、修理によって機能が維持できる場合に、ご要望により有償修理させていただきます。

本社・営業本部	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町６－６	TEL(03)3669-8121㈹

支店・営業所

札幌支店	〒060-0041	札幌市中央区大通東６－１２－８	TEL(011)261-7141㈹
仙台支店	〒984-0002	仙台市若林区卸町東２－１－２９	TEL(022)236-4121㈹
盛岡営業所	〒020-0824	盛岡市東安庭２－１０－３	TEL(019)621-3541㈹
新潟支店	〒955-0081	三条市東裏館２－１４－２８	TEL(0256)34-2112㈹
東京支店	〒103-8502	中央区日本橋箱崎町６－６	TEL(03)3669-8118㈹
群馬営業所	〒370-0031	高崎市上大類町４１２	TEL(027)353-7075㈹
長野営業所	〒399-0033	松本市笹賀８１５５	TEL(0263)26-4377㈹
東関東営業所	〒300-0811	土浦市上高津９１５－１	TEL(029)835-7322㈹
千葉営業所	〒284-0001	四街道市大日１８７０－１	TEL(043)422-7400㈹
名古屋支店	〒462-0819	名古屋市北区平安２－４－８７	TEL(052)918-8619㈹
静岡営業所	〒420-0067	静岡市葵区幸町２９－１	TEL(054)205-3535㈹
大阪支店	〒553-0004	大阪市福島区玉川１－３－１８	TEL(06)6444-2035㈹
京都支店	〒612-8414	京都市伏見区竹田段川原町１９５	TEL(075)645-5061㈹
神戸営業所	〒650-0017	神戸市中央区楠町６－２－４	TEL(078)367-1580㈹
広島支店	〒733-0035	広島市西区南観音７－１１－２４	TEL(082)291-6331㈹
福岡支店	〒812-0006	福岡市博多区上牟田１－５－１	TEL(092)411-5416㈹
南九州営業所	〒891-0115	鹿児島市東開町３－２４	TEL(099)269-5347㈹

販売関係会社

埼玉マックス㈱	〒331-0823	さいたま市北区日進町３－４２１	TEL(048)651-5341㈹
横浜マックス㈱	〒241-0822	横浜市旭区さちが丘７－６	TEL(045)364-5661㈹
多摩営業所	〒190-0022	立川市錦町５－１７－１９	TEL(042)528-3051㈹
金沢マックス㈱	〒921-8061	金沢市森戸２－１５	TEL(076)240-1873㈹
岡山マックス㈱	〒700-0971	岡山市北区野田３－２３－２８	TEL(086)246-9516㈹
四国マックス㈱	〒761-8056	高松市上天神町７６１－３	TEL(087)866-5599㈹

マックスエンジニアリング＆サービスファクトリー㈱

本社・高崎サービスステーション	〒370-0031	高崎市上大類町４１２	TEL(027)350-7820㈹
埼玉サービスステーション	〒331-0823	さいたま市北区日進町３－４２１	TEL(048)667-6448㈹
札幌サービスステーション	〒060-0041	札幌市中央区大通東６－１２－８	TEL(011)231-6487㈹
仙台サービスステーション	〒984-0002	仙台市若林区卸町東２－１－２９	TEL(022)237-0778㈹
名古屋サービスステーション	〒462-0819	名古屋市北区平安２－４－８７	TEL(052)918-8624㈹
大阪サービスステーション	〒553-0004	大阪市福島区玉川１－３－１８	TEL(06)6446-0815㈹
広島サービスステーション	〒733-0035	広島市西区南観音７－１１－２４	TEL(082)291-5670㈹
福岡サービスステーション	〒812-0006	福岡市博多区上牟田１－５－１	TEL(092)451-6430㈹

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

●マックスお客様ご相談ダイヤル（無料）**0120-228-358**
『ナンバーディスプレイ』を利用しています。

4100153
150911-00/01